

各事業会社の環境配慮



加工食品事業

食品製造時の環境負荷削減にとどまらず、物流時や容器包装の廃棄時にいたるまで、幅広い視点で環境配慮を行っています。

生産時の環境配慮

2つの工場で“ごみゼロ”を達成

ニチレイフーズの各食品工場では、ごみゼロ達成に向けてさまざまな取り組みを行っており、2004年度は(株)ニチレイフーズ・プロ 船橋工場、千葉畜産工業(株)の2工場が、新たにごみゼロを達成しました。

また、最終処分廃棄物の多くを占めていた(株)ニチレイフーズ・プロ 長崎工場の汚泥のリサイクルが進み、2004年度の目標としていた「1999年度比40%削減」を大きく上回る57.6%削減を達成しました。

2005年度は、1工場でのごみゼロ達成と最終処分廃棄物量の1999年度比60%削減をめざします。

取り組み事例



千葉畜産工業(株)では、ごみゼロを達成するための活動のひとつとして、紙とビニールが一体化した原材料袋を分別廃棄しています。



飼料を与えている養豚農家の豚舎



土壌改良剤が活用されている畑

生ごみのリサイクル

(株)ニチレイフーズ・プロ 船橋工場は、2004年2月より生ごみ処理機を導入し、製造工程から発生する生ごみのリサイクルに取り組んでいます。2004年度は、生成物の用途開発を進め、養豚用の飼料として活用を開始しました。

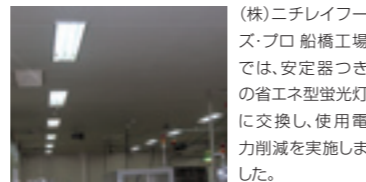
このほか、(株)ニチレイフーズ・プロ 白石工場では、処理物を肥料として販売する一方、土壌改良剤としての活用を進め、生産された玉ねぎや人参の購入を計画していましたが、2004年度は、台風の影響により生育が悪く実際の購買にはいたりませんでした。

地道な省エネ活動を実施

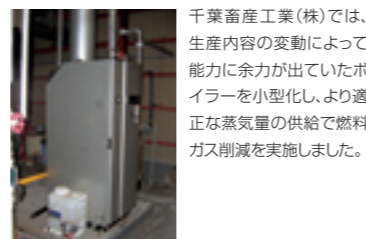
工場設備の省エネ運転や省エネ機器の導入など、CO₂排出削減に向けた各種の取り組みを行いましたが、2004年度の生産トン当たりのCO₂排出量は、1999年度比で10.9%削減となり、2003年度より1.4ポイント悪化しました。

今後は、地道な改善活動を継続するとともに、有効な設備や取り組みの検証を進め、効果的な対策を実施していきます。

取り組み事例



(株)ニチレイフーズ・プロ 船橋工場では、安定器付きの省エネ型蛍光灯に交換し、使用電力削減を実施しました。



千葉畜産工業(株)では、生産内容の変動によって能力に余力が出ていたボイラーを小型化し、より適正な蒸気量の供給で燃料ガス削減を実施しました。



(株)ニチレイフーズ・プロ 白石工場では、工場のファンや送水ポンプのインバーター制御による省エネ運転を実施しました。

保管時の環境配慮

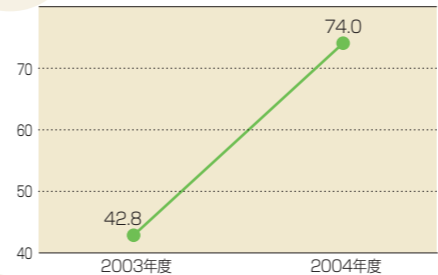
食品廃棄物のリサイクルを推進

賞味期限切れや物流の段階で発生する食品廃棄物について、堆肥化・飼料化やメタン発酵によるリサイクルを進めています。

2004年度は、リサイクルが難しいとされている缶飲料も含め、物流上の主要在庫拠点すべてにおいて、食品廃棄物のリサイクル委託先と契約することができました。リサイクル率も2003年度の42.8%から74%へ大きく増加しました。

2005年度は、リサイクルコストの削減をさらに図りながら、引き続き70%以上のリサイクル率の維持をめざします。

流通上の食品廃棄物リサイクル率 (単位:%)



物流時の環境配慮

モーダルシフトによるCO₂排出量の削減

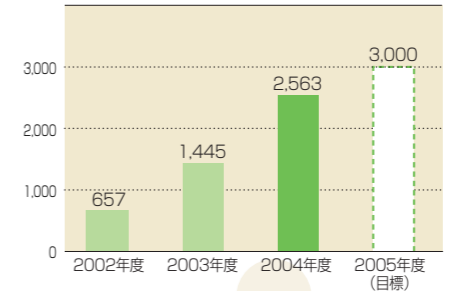
2003年12月に導入した、佐賀～船橋間の31フィートコンテナによる往復輸送の定期運行化により、2004年度は2003年度比77%増の2,563トンのCO₂削減を実現しました。

2005年度は、新たにフェリーを活用した海運輸送を計画しており、さらなるモーダルシフトの推進とCO₂排出量の削減をめざします。



31フィート専用コンテナ

モーダルシフトによるCO₂削減量 (単位:トン)



環境に配慮した商品の提供

容器包装における環境配慮

2004年度は、容器包装として使用する資材の具体的な削減目標値を設定(⇒P32)するとともに、容器包装の省資源、リサイクル性の向上、容器製造時の負荷削減などに取り組みました。

取り組み事例

容器包装の省資源化



トレーの削減(2004年7月より)により、使用量を74トン削減/年業務用「サクリのメンチカツ類」



ミラーシートを5枚から3枚に削減
ミラーシート(緩衝シート)の削減により、使用量を1トン削減/年業務用「衣サクサクのコロッケ」

容器包装製造時の負荷削減

ホットメニュー(自販機用商品)14品の箱内側の漂白を中止して漂白剤を不使用とすることで、容器製造時の環境負荷を削減

リサイクル性の向上

アルミ蒸着フィルムをPPフィルムに変更して素材を単一化することで、リサイクル性を向上

生産

保管

物流

消費

